

第3回「福岡市市民公益活動推進審議会」議事録要旨

1. 開催日時

平成18年8月2日（水）14:00～16:00

2. 場 所

福岡市役所15階 第4特別会議室

3. 議 題

- (1) 開 会
- (2) 新委員紹介
- (3) 審 議 等
- (4) 閉 会

4. 出席委員

池浦委員、稲舛委員、北嶋委員、熊谷委員、信友委員、原田委員、森田委員、
宮本委員、吉田委員

5. 傍聴者数

なし

6. 議事概要

(1) 新委員紹介について

前福岡市自治協議会等7区会長会会長の竹田委員のご勇退と前中央区長の山田委員の異動に伴い、福岡市自治協議会等7区会長会会長の原田委員と7区区長会から博多区長の遠藤委員の就任について紹介した。（遠藤委員は公務のため欠席）

(2) 審議事項について

事務局より、資料1～4に基づき説明。

(3) 主な意見

（会 長）市民公益活動応援ガイドの活用状況の報告がありましたが、企業関係にも応援ガイドを周知してほしい。

（事務局）7～8月は企業の人事異動があるので、新しい体制が落ち着いてから商工会議所や経営者協会を中心に訪問する予定にしている。

（会 長）市の職員にはどのように周知しているか。

（事務局）職員用の全庁OA活用して周知している。今後、研修で取り上げるとともに、事例や相談内容を報告しながらさらに周知したいと思っている。

（委 員）自治協議会にNPOが加わっているところがあるか。あるなら自治協とNPOがうまく連携している事例を紹介していった方がよい。

（事務局）育児サロンや地域の福祉ボランティアグループが入っているところは多い。

（委 員）自治協とNPO法人がうまくやっている事例を出した方がよい。自治組織とNPO・ボランティアの関係は、新たな視点である。

（事務局）校区によってはおやじの会や交番、商店街などが自治協に参加している。市としても連携が取れるところはできるだけ多くの参加を提案しており、実際144校区のそれぞれの自治協議会の形が生まれている。

(会 長) 自治協がNPO・ボランティアなど新しい団体と連携している成功事例を紹介していく事が大事である。

(事務局) 自分の校区以外知らないといわれるので、市は自治協のいろいろなやり方や良い事例を紹介していくのが行政の大きな役割の一つと考えている。市政だよりやケーブルテレビ、自治会ハンドブックなどで50事例ほど広報している。

(委 員) このようなガイドブックや条例については、自治連合会長への研修が必要ではないか。

(委 員) 自治会と公民館の関係は、それぞれの校区によっていろいろある。公民館の所管が市民局に変わったので、公民館の有り様も変わらないといけない。

(委 員) 公益活動の普及については、これまでと同じように紙ベースで伝達されているだけよりも、強いインパクトを与えるためにシンポジウムを開催してはどうか。

(委 員) 区役所と小学校長会の連携が始まったが、その場で公益活動の話が出なかった。このガイドを一過性に終わらせないことが大事なので、これからだと思う。

(委 員) 私たちNPOは、当初、公民館から援助を受けて活動を始めたので、地域に育ててもらった感がある。NPOが成長するにつれて、校区から離れた。地域ネットワークを作ったが、公民館と自治会のあり方が問題である。応援ガイドが活かされていくように、更新をどんどんやってほしい。

(委 員) 公民館は地域情報を持っている。自治会との連携が大事である。自治協議会と公民館を両輪として、公民館の今後の位置づけを考えてほしい。

(委 員) 「福岡まちづくりウィーク」などと題して、市庁舎広場で顔と顔がわかるように、市民公益活動のお祭り見本市を企画してはどうか。

(委 員) 賞状1枚でもいいので、「まちづくり大賞」を年1回1校区選んで表彰し、切磋琢磨の気運を起こしたらいいと思う。

以 上